

賛助会員のページ



株式会社 ナイバ

Naiba Co.,Ltd.

http://www.naiba.co.jp/

【会社概要】

昭和31年3月、四国は香川県高松市に地質調査業を専門とする内場地下工業(株)が誕生しました。今年で創立55年になります。

昭和40～60年代は公共工事の拡大に伴い、四国島内でのダム・トンネル・地すべり・電力施設関係の大規模工事にかかわる土木地質全般の調査をはじめ、地域特有の老朽ため池改修にかかわる調査も数多く実施してきました。また調査計画の基本となる地表地質踏査については、計画構造物に着目して現地踏査を行うなどとくに重点をおいてきました。

平成に入り、地すべりを主体とした斜面防災関係の調査・設計やその対策工事に、また兵庫県南部地震後の四国島内活断層調査の多くにかかわり、調査を実施しました。一方、地元の要望に応えるべく、既存の削孔技術を発展させてエアハンマー削孔法による岩盤地下水や温泉などの開発に着手しました。

平成3年4月には更なる社会貢献を目指して、(株)ナイバへ社名を変更した次第です。

【地元企業としてのコンテンツ】

当社のような地方密着型の会社は、地元だからこそ成し得た集積された地域地質データがあります。当社はこれらを駆使して、きめ細かい社会的要求に応える地質サービスを心掛けています。会社創立以来、試験室を構え、一般的な土質・岩石試験は自社でできるようにしております。またドリリング技術の進展によりボーリングコアの採取率はほぼ100%になりました。現在は、できるだ

け現位置の自然な状態でコア採取できるように色々と工夫を重ねております。近年特に深度100m以上の深いオールコアボーリングに力を入れています。現在四国島内の結晶片岩地帯(三波川帯)での深度500mをはじめ、深度100～200m程度の深掘り調査ボーリング二十数本の実績ができました。

【今後の取り組み】

四国山地には、すべりの末端が河床まで達する新しい地すべり、斜面中腹に残っている古い地すべりが多数存在します。古い地すべり地は、急峻な山間地のなかで唯一生活の場を与えてくれる緩斜面ですが、数mm/年と緩慢に滑動している箇所も結構あります。このため山間地を通過する四国の道路は、地すべり地を避けて建設することはできません。ダムから取水している導水路、送電鉄塔も同様です。

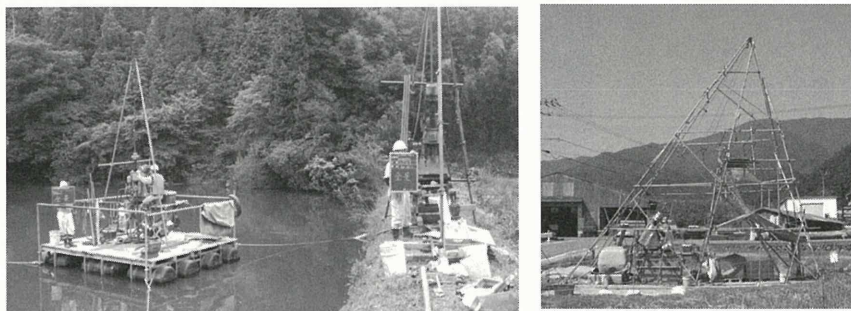
四国沖を震源とする南海地震については、今後30年以内に発生する確率が50%、四国島内で震度5弱～6強と推定されています。津波とともに、すべり崩壊や液状化による地盤災害が広域に想定されます。また平成16年の局地的な集中豪雨による島内各地の土石流災害や高潮災害も記憶に新しいところです。

今後も斜面防災をはじめ、ため池の漏水問題などの課題に現地踏査やボーリング調査を中心にかかわり、調査技術の継承・発展を目指します。また大深度ボーリング調査も引き続き、積極的に取り組みたいと考えています。

当社は、マニュアルだけに頼らない、現場経験から得られる地質技術者としての経験「勘」を大切にしていま

す。パソコンの普及した現代、何事もマニュアルどおりに計算を行い、ディスプレイの結果を妄信する傾向が見られ「安全率が1.2あるのに滑るのは山がおかしい!&?」と、この感覚に陥らないために、また顧客の要請に貢献でき得るためにも日々の研鑽と現場経験の重視、総合解析力の向上を目指しています。

(文責：山本和彦)



(左)老朽ため池の調査状況、(右)通常マシンによる斜め下60°コアボーリング深度200m仮設状況